

「日本人の知性」第10巻

全10巻

学術出版会から刊行

学術出版会発行・日本図書の。第一期では、亀井勝一書センター発売により「日郎、谷川徹三、小林秀雄、本人の知性」第一期全10巻が刊行されている。A5判・上製・カバー装・各巻平均280頁・各巻5040円。

本シリーズは、哲学者、評論家、社会学者、文学者、教育学者、経済学者、ジャーナリストなど人物ごとに、それぞれの「知性」をめぐる言説を集成したものである。西暦と日本との間の、知的貸借表といったものがある。とすれば、おそらく日本は借方一方ではなかったろうか。西洋の知的資本の莫大な流入のもとに、日本の知

「人が実在の底知れぬ深淵を測ろうとするには、人間の感覚経験や知的作用のみでは不十分である。悟りをそれに加えなければならぬ。機械的・量的に加えるのではなく、いわば化学的に又は質的に加えなければならぬ」（「禪の研究 二、悟り」より）

著者それぞれの専門的論考と、日常的視点により書かれたエッセイをバランスよく1冊に編む。（写真左上は『日本人の知性第8巻 清水幾太郎』の表紙）

日本人の知性

第8巻



清水幾太郎

識人は重労働を強ひられてきたやうなものである」（二十世紀日本人の可能性 序説「よ

り）
鈴木大拙